

Vol.15  
2013 SPRING

# ISSUE

【繋ぐ】

Big value in homemade book which is particular about beautiful shape.

美しさにこだわる  
「手製本」の価値。

愛でる  
Me-de-ru

紙を愛する匠たち

「KAMI-WAZA 紙ワザ」



# 手製本

規格外の本づくりを支える製本の技と知恵

オートメーション化された機械製本が主流の今、  
あくまで手作業にこだわる製本会社「美篤堂」  
和洋を問わず「本の構造や紙の特徴」に精通し、  
クリエイターの多様かつ高度な要求を形にしてみせる技術や知恵は、  
これからの出版界になくしてはならない、比類なきものです。  
複雑な製本技術が詰まった、手づくりならではの美しい一冊。  
あなたなら何を綴りますか？

TSUNAGU

TSUNAGU 2013 Spring

- 愛でる** 01 「KAMI-WAZA 紙ワザ」  
手仕事にこだわる  
美篤堂の製本技術。
- 作る** 06 「PAPERCRAFT on the DESK」  
デスクで春を感じる  
桜のペーパークラフト。
- 広げる** 08 「PAPER TRIVIA」  
神事に登場する  
「聖なる紙」を賞玩する。
- 辿る** 09 「紙育(カミイク)」  
見直されつつある  
「紙芝居」の魅力。
- 伝える** 10 「紙が紡ぎ出すものがたり」  
自らの津波体験を語り継ぐ、  
田畑ヨシさんの紙芝居。
- 出会う** 11 「KPP人物図鑑」 **Special**  
田辺副社長が見据える、  
新しいビジネスモデルとは？
- 深める** 13 「KPP HEADLINE」  
KPP最新ニュースを  
キャッチアップ。
- 先ほど** 14 「EDGE of PAPER」  
紙の特性を生かした  
iPhoneケース。
- 感じる** 15 「季節の一冊」  
大切なものを守るために  
生きる人々を描いた6編。



表紙の写真

「B6丸背製 さくら咲くノート」

その名のとおり、背の部分が緩やかな丸みを帯びた上製本(ハードカバー)ノート。桜をイメージした本文は、4色の色上質紙を使ったグラデーション仕上げ。クロスを貼った背表紙には、美篤堂のしるしを意味する落款空押しが施されています。



【豆本カードスタンド】  
45×33×20mmという豆本サイズのカード  
スタンド。小さくても作りはハードカバーの本  
と同じなので、作りは丈夫。本文部分にカード  
を挟んで使うほかに、メッセージを書き添えて  
プレゼントするのもおすすめです。

## 日本のトップクリエイターたちから 発注される仕事

美篤堂を創業後、(株)竹尾のペーパーサンプルやペーパーショウの製作を手がけたのをきっかけに、松男さんが持つ本の構造に精通した幅広い知識、その卓越した製本技術に対する認知が広がっていききました。杉浦康平氏、五十嵐威暢氏、田中一光氏など時代を代表するクリエイターたちの製本を担当。勝井三雄氏のように、自ら伊那の工場を訪れ、特殊な本の出来を確認される方もいらしたそうです。

「これまでに誰も見たことのないものを作るわけなので、デ

「何千、何万という部数の製本を、すべて手作業で行っていた時代もありました。しかし、大量生産の時代を迎え、すべての製本作業は機械がやるようになった。その結果、手製本をする職人は探すのも難しくなっていましたね」。

機械によるオートメーション化が進む中、松男さんはあえて手製本を選択されました。「サイズが大きかったり、小さかったり。また、すごく重量がある本など、どうしても機械では作れない規格外の本がありますから」と松男さん。気取らない温かい笑みを交え、「損得だけでは仕事はできませんよ」と話します。



娘の明子さんは、主に都内にあるショップでの商品販売、ワークショップを担当。月に1,2度は伊那の工場へ次の本作りの打ち合わせに赴く。

デザイナーの方によつては、「こんなかんじのもの」というメモやおまかなイメージしかない、ということもあります。それを本にするための方法を考え図面をおこし、試作を繰り返しながら形にしていますが、これでもかというくらい難しい要望ばかり。それでも完成形を見たお客様が「いいものができた」と喜んでくれることが、何より嬉しいんです」。

松男さんの技術は、自らの感性に妥協することのないクリエイターたちに求められることで磨かれ、数々の画期的な製本手法を生み出すことにつながったのです。



手製本一筋に、出版界発展に寄与してきた上島松男さん。その温かい人柄に惹かれ、多くのアーティストが工場を訪れる。

## 手作業での製本にこだわる 美篤堂の仕事

製本とは、印刷された複数枚の紙を糸や針金、接着剤などで綴じ、表紙をつけて本の形にする作業のこと。書籍、雑誌を問わず、本を制作する過程において、最後の工程となる仕事です。

「単調な作業の繰り返しですが、私たちにとっては結構ドラマチックに感じるものなんです。そう話すのは、手作業でしかできない本を作り続ける製本会社・美篤堂社長の上島明子さん。

「私たちに依頼いただくのは、画集や詩句集をはじめ、クリエイターの方々のアイデアを具現化する特殊な装飾を施した特装本など、機械製本ではこなせない形の本ばかり。多くの手間や根気のいる仕事ですが、私たちができないと言ってしまうと本にならないものばかりなので、できる限りお応えしたいと



思っています」。

高名なグラフィックデザイナーや芸術家、作家など、製本や紙にこだわるアーティストたちの最後の砦として、高い評価を受け続ける美篤堂。その現場を見学する機会をいただき、長野県・伊那市にある工場を訪ねました。

## 機械化へと移行する時代に、 手仕事を選択した美篤堂

のどかな山あいの里、信州・伊那。アルプスの峰からの風が吹き抜ける田園風景の中に、美篤堂の工場があります。紙をさばき、重なる音がリズムよく響く工場で働くのは、工場長の上島真一さんを中心とする10人のスタッフ。その大半はパートタイマーの地元の主婦ですが、中には10年を越えるベテランの方もいて、大きな作業台を前に慣れた手つきで手際よく作業をこなしています。

「遠くから大変だったでしょう」。迎えてくれたのは、明子さんの父親であり、創業者である上島松男さん。中学卒業と同時に東京・神田にある関山製本社に入社し、約30年にわたって高度な製本技術を習得。その後、手製本の部門を譲り受ける形で1983年に独立し、美篤堂を東京に設立。後に製本所を伊那市美篤に開設されました。



A: デザイン画をもとに、工場長・上島真一さんが製作を担当したコンテストのトロフィーの試作品。緻密な断裁技術は圧巻の一言。



B: 工藤強勝氏の造本。5人の芸術家を紹介する美術館のパンフレット。蛇腹折りのひと見開きに、ひと折り分のページを組み込む製本技術は、海外からの問い合わせがあったほど。

C: グラフィックデザイナー・太田徹也氏の代表的なブックデザインを紹介した個展図録。内容に合わせて、折り単位ではなく、1枚ごと丁合されている。



巻き紙を敷き、表紙の紙を巻き込み、引っ張りながら、折り返し部分と断面をこすって貼る。



糊を塗った表紙の上に板紙のパーツをのせ、背板紙の両側にある不要部分を抜き取る。



表紙の下に敷き紙を置き、刷毛を使って素早く糊を塗る。



表紙になる紙の上に印を書き入れて、仕上がりに合わせて採寸した板紙をのせる。



花布(はなざれ)と呼ばれる飾り布を、膨らんでいる部分をはみ出すように背の上下に貼る。



背の部分に製本用ボンドを塗り、寒冷紗(かんれいしゃ)と呼ばれる布を貼る。その上からさらにボンドを塗る。



上からおしをして10~15分間プレス。紙に含んだ水分を落ち着かせ、形状を固める。



本の背になる折り目側に水刷毛を走らせ、水分を含ませることで紙の繊維をやわらかくする。



本文の紙45枚と見返しの紙2枚を、紙の表側が内側になるように、すべての紙を半分にする。



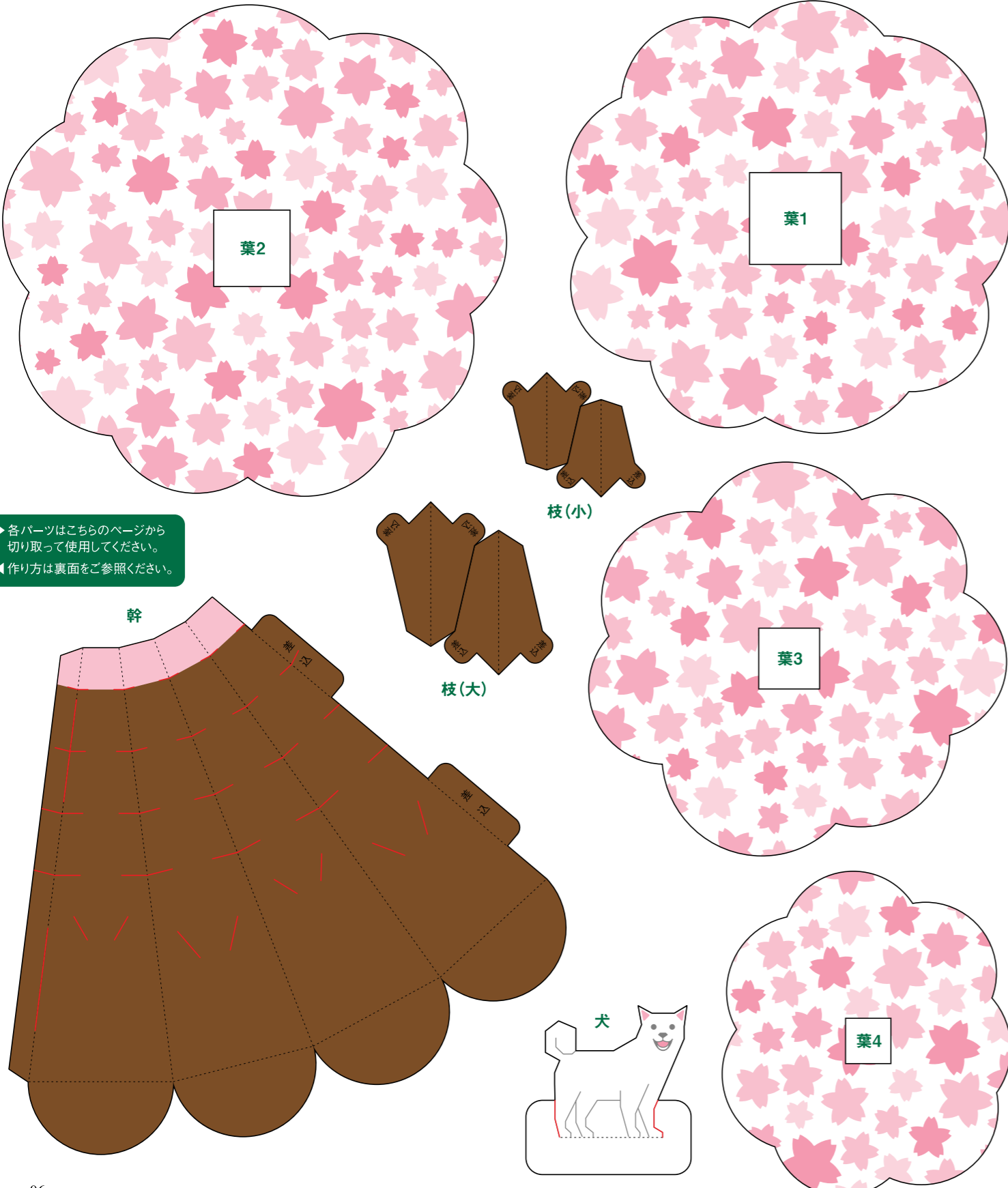
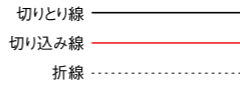


紙と触れ合い、モノを作る

# 「PAPERCRAFT on the DESK」 TSUNAGUオリジナル

## 『デスクde花見』ペーパークラフトセット

「仕事が忙しくて花見に行けない」というあなたのために、デスクに飾ればちょっぴりお花見気分を楽しめる、桜の木のペーパークラフトをご用意しました。  
「花咲かじいさん」の白い犬もセットで楽しんでください(ここ折れ、ワンワン!)



▶各パーツはこちらのページから切り取って使用してください。  
◀作り方は裏面をご参照ください。



「グラデーションペンスタンド」:細く切った紙を束ねて作った、美しいグラデーションのペンスタンド。メモやカードを挟むこともできます。



「アコーディオンアルバム」:経本のテクニックを使った蛇腹本仕様のアルバム。ポストカードやスクラップを張り込んで使用します。

### 持っている技術を生かしたオリジナル商品

2000年頃、美篤堂はオリジナル商品の制作・販売を開始。これまでに、社長の明子さん、工場長の真一さんを中心とするスタッフのアイデアによって、さまざまな商品を開発してきました。使い手のことを考え、一つひとつ丁寧に仕上げられた美篤堂の商品は、いいものを知っている感性の高い人々を中心に、じわじわと人気が広がっています。

「オリジナル商品は、私たちの技術を生かせるものは何かを考えて企画したもの。つまり、私たちの製本技術を楽しんでもらうために、どんな用途があるかを逆算して考えています」と明子さん。

肌触りのよい布の表紙と、しつとりと手になじむ色用紙で仕上げた上製ノートや、経本の技術を生かしたアコーディオン型のアルバム、豆本サイズのカードスタンドや紙の断面をつけて作ったペンスタンドなど、どの商品にも美篤堂ならではの技法と情熱が詰まっています。

### 後世に受け継がれる美篤堂の技術

近年、美篤堂が積極的に取り組んでいるのが、実際に製本を体験できるワークショップです。用意された材料を使い、1回の参加で1冊の本を作れるというもので、ブロックメモを使った上製本など比較的簡単なものから、丸背製本といった高度な技



**美篤堂**  
長野県伊那市美篤にある工場のほか、東京・神田にある竹尾見本帖本店(東京都千代田区神田錦町3-18-3)内2Fにてオリジナル商品や製本道具、製本キットを販売。  
■美篤堂公式サイト  
<http://www.misuzudo-b.com/>  
■オンラインショップ  
<http://misuzudo.shop13.makeshop.jp/>  
これまで「はじめての手製本 製本屋さんが教える本のつくりかた」(美術出版社)を皮切りに、3冊の著書を発表。4月上旬には豆本に使うすべての紙の材料を綴じ込んだ「はじめての豆本」(グラフィック社)を新刊。

術を要するものまで、そのメニューも豊富。都内各所、長野県を中心に、月に4、5回の頻度で開催されています。  
「最も多いのは、美術学校の学生さんを対象にしたもの。これまで製本のお仕事でお付き合いいただいたクリエーターの方々が先生として後進の指導にあたるようになり、ご依頼が増えました。それ以外にも、お子さんが描いた絵をまとめたという主婦の方や、ハードカバーの自叙伝を作りたいという年配の方など、参加される方や、その目的はさまざまです」と明子さん。そのほかにも、カルチャースクールや出版社主催のイベントなどでも、ワークショップを開催。さらにはNPO法人を通して、障がいを抱える方々にその技術を指導するなど、製本の楽しさを知ってもらうための活動を幅広く展開されています。  
しかし、松男さんが長年の努力の末に習得した誰にも真似のできない技術は、美篤堂の大きな財産といえるもの。  
「私の技術は、私だけの技術にしても意味がありません。プロであろうと素人であろうと、知りたいと思う方にはどなたでも教えるつもりです」と語る松男さん。最後にこれからの抱負を尋ねると、「まだやったことのない難しい製本の仕事をやってみたいですね」とのこと。美しい本を作りたいという人がいる限り、美篤堂の挑戦は続いていきます。



完成

貼り付けた見返しの紙を乾いた布を使っておさえる。その後、再び竹ひごをかませた状態でおもしろのせ、そのまま一晩寝かせる。

寒冷紗と、表紙と本文をつなぎ合わせる見返しの紙にすばやく糊ボンドを塗る。

2ヶ所の溝に竹ひごを置いた後、上からおもしろをして4~5分間プレスする。

表紙のうえに本文を重ね、三方のちり(表紙がはみ出した部分)が均等になるように調整する。

紙の持つ可能性・面白さ再発見  
「PAPER TRIVIA」



大幣(おおぬさ)

いにしえの時代から、私たち日本人は自然の中に人知を超えた力を感じ、山や岩、樹木、滝などに神を見出し、畏れ敬つてきました。自然と深く関わりながら暮らしを営みその恩恵を受ける一方で、自然を神宿るものとして祈りを捧げることで、生命の尊さを実感してきたのです。こうしたまつりの場所に建てられた多くの神社に、現代を生きる私たちも初詣や厄除け、婚礼や初宮参り、七五三などの行事を通じて足を運んでいます。

ふだん特別に意識していませんが、神社には「紙」が登場するシーンがたくさんあります。古来貴重品であった木綿や絹などとともに幣帛(＝神様への捧げもの)とされてきた紙は、神と人の居所を分ける聖なる結界の目印として注連縄などにつけて垂らす紙垂となったり、祭祀において使われる大幣として穢れを祓う道具となったり、社殿の中に立て神の依り代として用いられる御幣となったり、ほかにも大祓の人形や御札などがあります。紙は、神に例えられる聖なるものでもあるのです。

最近、多くの神社がパワースポットとして注目を浴び、たくさんの方が訪れるようになってきました。特に今年には伊勢神宮と出雲大社が遷宮を迎える年です。遷宮とは、神殿を立て直し、神様にお移りいただくこと。伊勢神宮は20年に1度、出雲大社は60、70年に1度行われますが、2つの遷宮が重なるのは極めて稀です。参拝して、さまざまな紙の美しい造形を眺め、境内の清々しい空気に身を委ねてみてはいかがでしょう？



紙垂(しで)



御幣(ごへい)



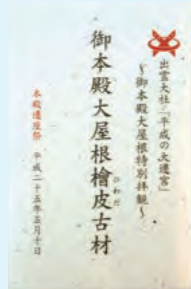
出雲大社 | 平成の大遷宮

延享元年(1744)の御遷宮御造営以来、文化6年(1809)、明治14年(1881)、昭和28年(1953)と3度にわたり行われてきた御遷宮御修造が、5月10日「平成の御遷宮(本殿遷座祭)」として執り行われます。6月から11月にかけては、出雲大社の境内や周辺地域でさまざまな行事やイベントが行われます。

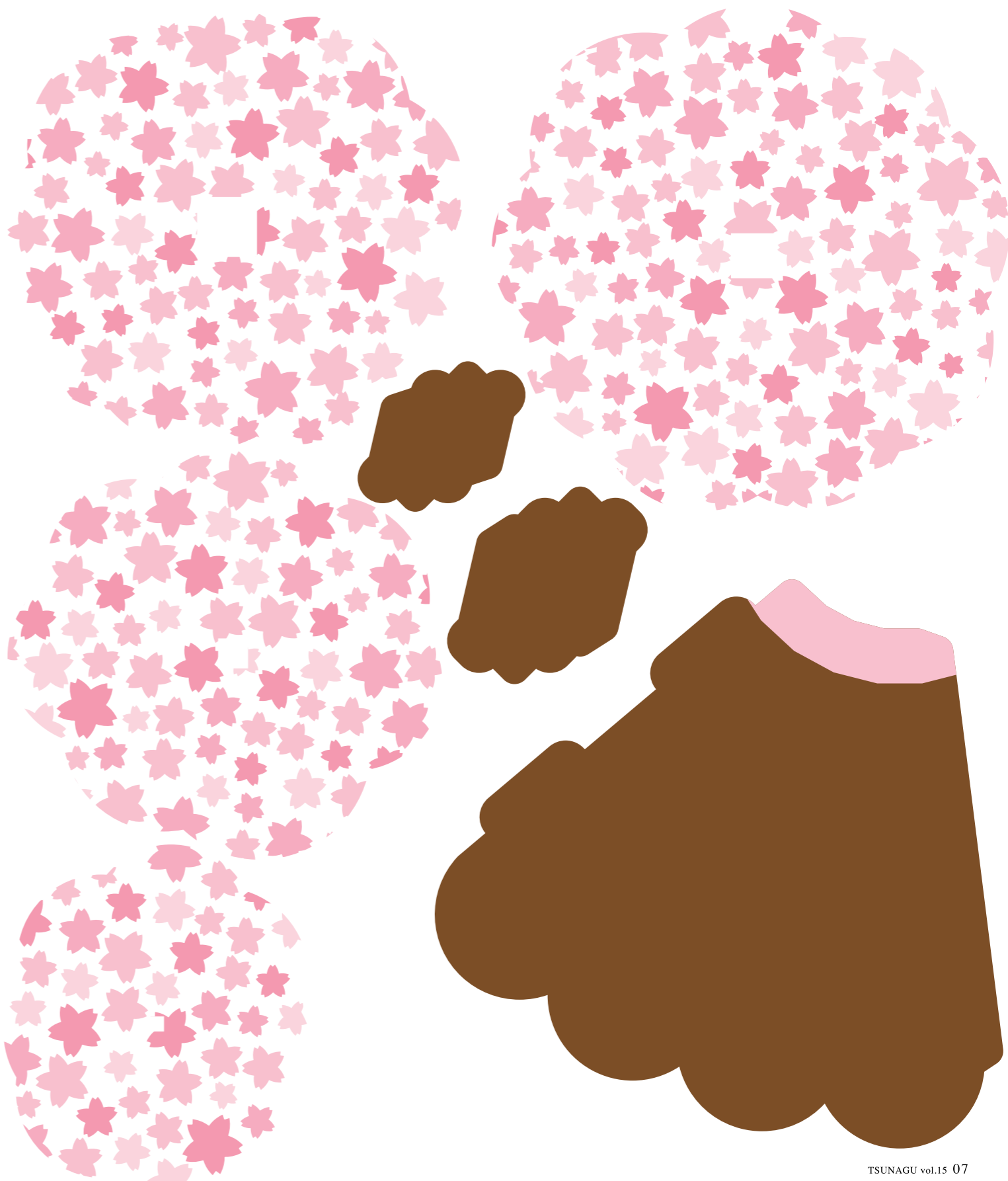
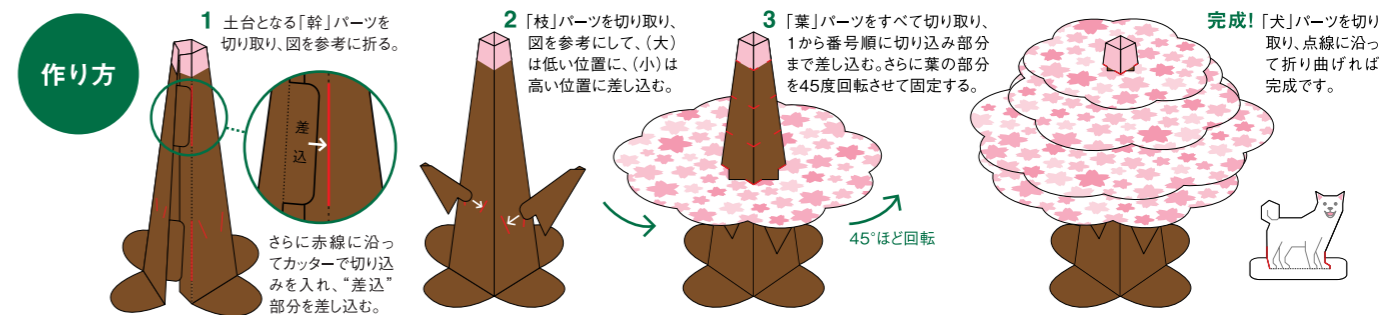
<参照・参考文献>  
『日本大百科全書』小学館 1987  
『東北の伝承切り紙』平凡社 2012

檜皮混抄紙(ひわだこんしょうし)

60年ぶりの御修造となる「平成の大遷宮」が行われている出雲大社で、長年の風雨から建物を守ってきた御本殿の屋根の檜皮(ひわだ)。当社はこの檜皮を原料の一部に混抄紙を作る提案をし、採用されました。“神の紙”といえるこの檜皮混抄紙は、御守や祝詞紙に使用されています。



神と紙。神事に登場する聖なる「紙」。



紙に秘められた"こころ"に触れる  
「紙が紡ぎ出すものがたり」

岩手県宮古市の海辺の町、田老の出身で今年88歳になる田畑ヨシさんは、2度の大きな津波を経験しました。最初は1933年(昭和8年)に起きた「昭和三陸地震」で、当時、ヨシさん8歳、妹のキヌさんは3歳でした。ふたりはこの津波で大好きなお母さんをなくしました。

津波で足をけがしたお母さんが治療のために担架代わりの戸板にのせられて、運ばれていくのを、ヨシさんは、高台にあるお寺の石段の上から見ていました。キヌさんはおばあちゃんにおおわられていましたが、まだ幼く、その記憶はありません。

ところが、キヌさんがお嫁にいった先のお姑さんが、この時の情景をよく覚えていて、お母さんは、運ばれて行く時に、もう一度キヌさんの顔を見たいと、一度引き返したんだよと、教えてくれました。「あんなむごいことがあつてえか(あるだろうか)」。お姑さんは、その話をいつも涙ながらに語るのです。

ヨシさんもキヌさんも幼い子どもを残して死んでいったお母さんの無念な気持ちが、痛ほど理解できるようにになったのは、自分が母となり、子をもった時でした。

さらに時がたち、巣立っていったヨシさんの娘が、孫たちといっしょに、海辺の町「田老」にもどってくることになりました。50歳になっていたヨシさんは、孫たちに津波のことをしっかり教えて、何があっても命をまもらなければと思い、小さい孫たちがわかるよう、語りついでいく方法として「紙芝居」を作りました。

第五回 孫の代に語りつぐ津波体験  
田畑ヨシさんの紙芝居「つなみ」

真夜中に起きたおそろしい地震、山への避難、夜が明けて変わり果てた町、流木の間に横たわる遺体……、大けがをしたお母さんが運ばれていくのを、必死に涙をこらえて見送っていた幼い自分。

それまで胸の奥にしまっていた辛い記憶を、ひとつひとつ、掘り起こしていききました。

それから、30年以上、ヨシさんはその紙芝居を地域の子どもたちや、修学旅行生の前で、読み聞かせました。絵の専門家でもない、作家でもないひとりの女性が、本当に大事なことを語りつぐために描いた素朴な紙芝居は、多くの人の胸を打ちました。

そして、2011年3月11日。ヨシさんとキヌさんが住む海辺の町「田老」に、これまで経験したことのない巨大な津波が押し寄せました。田老はくり返し津波の襲撃を受けた教訓から「東洋」といわれる防潮堤で町を囲み、防災の町としても知られるくらいでした。その防潮堤をらくらくとりのりこえて襲いかかる大津波。ヨシさんとキヌさんは、高台にあるキヌさんの家の2階から、もくもくとした黒い物が山のように連なつて近づいてくる様子を息をするのも忘れて、見つめていました。

真っ黒い海水が、音もなくせまりくる恐怖。2階から町を見下ろすと、防潮堤が目隠しとなって、津波に気づかずにいる町の人の姿が見えました。

「命でん(ん)でもいいが、高いとこ、にげろー」。そう大きな声で叫びました。そして、心の中で、紙芝居で伝えてきたことを、ひとりでも多くの子どもた



ヨシさんのてがきの紙芝居「つなみ」  
表紙には、津波で流される「家、船、人」が描かれています(画像:上)。戸板で運ばれるお母さんとそれを見ている女の子。ヨシさんの脳裏から離れることのない悲しい日の情景です(同:下)。  
紙芝居は「おばあちゃんの紙しばい つなみ」(産経新聞出版社)としてなっています



田畑ヨシさん  
1925年岩手県宮古市田老生まれ。漁師の夫を支えて、民宿をやりながら3人の子どもを育てた。「田老の人たちはウニをとって半年、アワビをとって半年暮らし、その間にわかめやこんぶをとって、海に豊かさをもらって暮らしてきました。海とともにみんな生きてきたんです」と話します。

ちが、思い出して、生きのびて欲しいとただ願うばかりでした。

現在、ヨシさんは長男家族の住む青森に住んでいます。田老は津波で多くの犠牲者を出し、ヨシさん自身も自宅を流されました。しかし、ヨシさんは今でも時々田老からよばれると、紙芝居を演じるために、海辺の町に出かけていきます。この町には、どんなに海に悪さをされても、それでも海が好きで、海といっしょに生きていきたいと願う人々が住んでいるからです。この町で生きていくために「命でん(ん)この教えをみんなが語りついでいくことが大切だと、ヨシさんの紙芝居が伝えていきます。

※「命でん(ん)この教え」津波がきたら、「入ひとりが自分の命に責任をもつて逃げろ」という教え。



未来に遺すべき「紙文化」  
「紙育 kami-iku」

今回のテーマ

紙芝居

先の読めない展開に心躍る、子どもたちの娯楽・紙芝居。その人気が再燃している理由とは？

「さあ、紙芝居がはじまるよー」。かつて昭和の街角や空き地で演じられ、子どもたちを熱狂させた「紙芝居」。自転車の荷台に舞台を乗せたおじさんが叩く拍子木の音を聞いて、小銭を握りしめて走っていく子どもの姿が、日本の風物詩と言われる時代がありました。

街頭での紙芝居が全盛となったのは、昭和20、30年代。その後、街頭テレビの登場によって主役の座を奪われた紙芝居ですが、近年はその人気が回復の兆しを見せています。その要因となっているのは、団塊世代前後のノスタルジックさだけでなく、アナログならではの「コミュニケーション」。紙芝居のもつ臨場感、観客との掛け合いや駆け引きによって生まれる「共感」が、演じ手と観客、観客同士の心をつなぐものとして見直されているそうです。人間関係が希薄になったといわれる現代だからこそ、直接人と関わる心地よさに好感を覚える人が増えているのかもしれませんが。紙芝居は、全国の放課後児童クラブ※で広く取り入れられているほか、住宅の展示場やデパートなどのイベントスペースでの公演も増えているそうです。

迫力ある物語の展開だけでなく、ワクワク感をおおる演じ手の声の調子、物語の内容に合わせて絵を、抜く、スピードを変える演出、観客の反応に応じて途中で挟む演じ手のアドリブなど、紙芝居は同じものを二度演じることのできないその場限りのエンターテインメント。改めてその魅力に触れてみませんか？

※放課後児童クラブ：保護者が仕事をしている子どもたちを対象に、遊びの場などを提供する施設。



「成熟産業となった大手製紙各社は、森林事業やバイオマス関連事業といった他分野への開拓を進めています。これは、紙・パルプ産業の源泉である、原料の木に立ち返って事業転換しようというものです。これまでは木を原料とした高付加価値製品が「紙」であったわけですが、時代の転換期に差し掛かり、紙以外の木質原料の利用方法が拡大しております。例えば虫歯予防の甘味料であるキシリトールやコレステロール低下剤のスタノールは糖や松を原料としています。つまり、薬剤、繊維、バイオエタノールなど木材資源をベースとした

### サービス産業への進化

1971年の入社以来、人事、仕入、営業、開発とあらゆる部門で事業成長に貢献し、国際紙パルプ商事の舵取り役として精神的な活動を続ける田辺副社長。2008年のリーマンショックを境に世界経済の冷え込みが続く、紙パルプ市場が様変わりしてしまっただけでなく、どのような分析されているのか。という点から、

事業領域は無数の可能性を秘めていると言えるでしょう。

製紙メーカー各社が木を利用した総合事業へと進化を遂げる中、国際紙パルプ商事としてもビジネスのしくみを変えていく必要があると考えているそうです。

「総合製紙メーカーは、木を原点にした森林クラスター企業です。一方、私たちは紙を原点にしている企業。将来はこの立ち位置の違いが経営の舵取りにも影響してくるようになっています。当社も紙単体事業から紙複合事業へと脱皮し、あらゆるサービスを提供できるペーパークラスター企業へと進化しなければならぬと思っています。」

田辺副社長の座右の銘は「勇往邁進」。その言葉どおり、新しい挑戦への勇ましい意思がうかがえます。

### ラグビーに打ち込んだ1年間

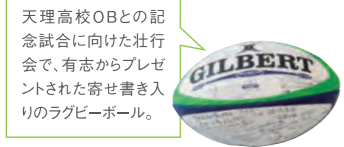
高校ラグビー全国選手権の会場が、花園ラグビー場に移ってから50年。その節目を記念して、花園初開催の決勝戦（1963年・北見北斗対天理）を当時の世代で再戦することが決まり、北見北斗（北海道）のOBとして田辺副社長がフル出場しました。試合は全国選手権準決勝（1月5日）の前座試合として行われました。

「この試合に向けて、土曜はジム、日曜は地元のアスリートに所属し、1年間にわたってトレーニングを積んできました。すごくきつかったです。楽しい時間でしたね。」

出場選手の平均年齢が60代後半ながら、



相手選手のタックルを交わり、勇猛に突進する田辺副社長。



天理高校OBとの記念試合に向けた壮行会で、有志からプレゼントされた寄せ書き入りのラグビーボール。

盤になるはずですが。

「若い社員と仕事をするのが好きだ」という田辺副社長。決して偉ぶることなく気さくに語りかける言葉は、若手社員にとつての羅針盤になるはずですが。

### 若手社員に対する言葉

そんな田辺副社長が今後、若手社員に期待することとは？

「当たり前ですが、失敗を恐れず新しいことにチャレンジする心意気を持つてほしいですね。そのためにもたくさんの人に会って話を聞き、さまざまな本を読むことで、自分の判断力の基準を上げていくことが大切だと思います。」

「めざすのは、ペーパークラスター企業。新しいビジネスモデルをつくり、次の世代にバトンタッチしていきたい」



KPP を担うキーパーソンの素顔に迫る  
「KPP 人物図鑑」  
SPECIAL EDITION



国際紙パルプ商事株式会社  
田辺 円 副社長

1949年生まれ、北海道出身。1971年入社。新聞用紙部を経て、2年目には総務本部・人事に配属。社内報、企業年金の立ち上げ、制服の導入などに尽力。その後、仕入部に11年、卸商部に4年在籍。洋紙製品のプライベートブランドや世界初となる紙シールタイプの切り花長持ち剤など、オリジナル商品の開発に従事。2002年からは営業推進営業本部長として陣頭指揮を執ったのち、2012年6月から現職。

### 田辺副社長の活躍を語る4つの紙製アイテム



**KPPブランドの洋紙商品**  
仕入部時代に田辺副社長が中心となって製品化したプライベートブランドのパフレット。初めての本格的な再生紙として発表されたもので、代理店ブランドの先駆けとなった。



**スケジュール・ファイル**  
仕事、プライベートの1ヵ月の予定がひと目で把握できる、便利なスケジュール・ファイル。過去にさかのぼって何があったのかも確認できるので重宝しているとか。



**メモリー・ノート**  
新聞から抜粋したスクラップ記事やアイデアをストックしておくためのA5版ノート。持ち運びに便利なので、時間があるときに読み返すことで情報を整理する。



**仕入部だより**  
仕入を担当していた頃、業界、市場についての情報を営業スタッフ間で共有する目的で作っていた案内書。当時はパソコンが普及していなかったため、すべてが手書き。

01 「iPhone Paper Jacket」

発売：東洋ケース(株) <http://www.toyo-case.co.jp/>

オリジナル志向のユーザーに人気  
自分で組み立てる紙製ケース

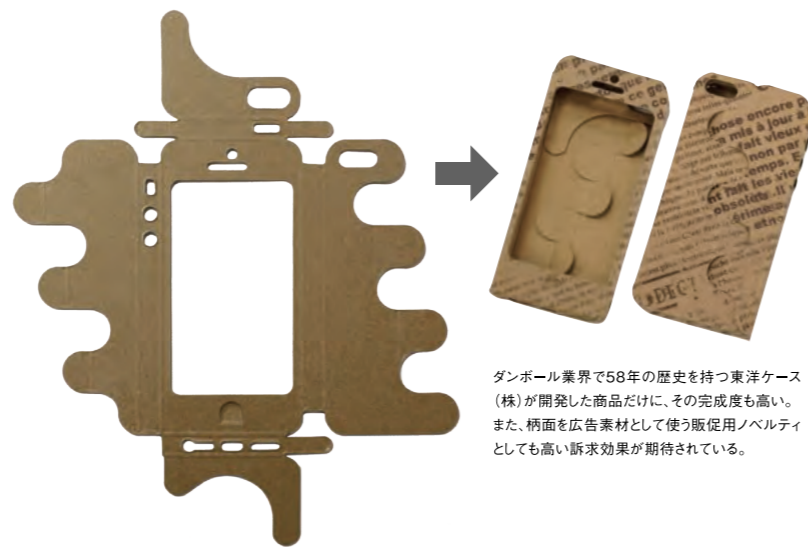
シリコン、プラスチック、アルミ、天然木、人工皮革、蛇革、クロコダイル革…。これらはすべて、スマートフォンケースの素材として使われているもの。しかし、既製品であるがゆえに、自分だけのデザインにアレンジするのは難しいものです。そんなオリジナル性を追求したいあなたにぴったりののが、この「iPhone Paper Jacket (アイフォン ペーパー ジャケット)」。

厚さ0.85ミリという極薄のダンボールを素材にしたiPhoneケースで、柄はニュースペーパーと迷彩の2種類。それぞれに無地タイプも付属しているので、自分で絵を描いたり、シールを貼ったりして、自分好みのオリジナルケースに仕上げることができます。その組み立ても、ダンボールの台紙から切り取り線に沿って型を抜き、iPhoneを入れたら折り線に沿って組み立てるだけ。のりやハサミを使わずに、5分もあればできあがります (YouTubeにて組み立てマニュアルの動画も公開中)。軽くてエコという紙製の特長を生かしたiPhoneケース。注目を集めること間違いなしの逸品です。



ニュースペーパー柄

迷彩柄



ダンボール業界で58年の歴史を持つ東洋ケース(株)が開発した商品だけに、その完成度も高い。また、柄面を広告素材として使う販促用ノベルティとしても高い訴求効果が期待されている。

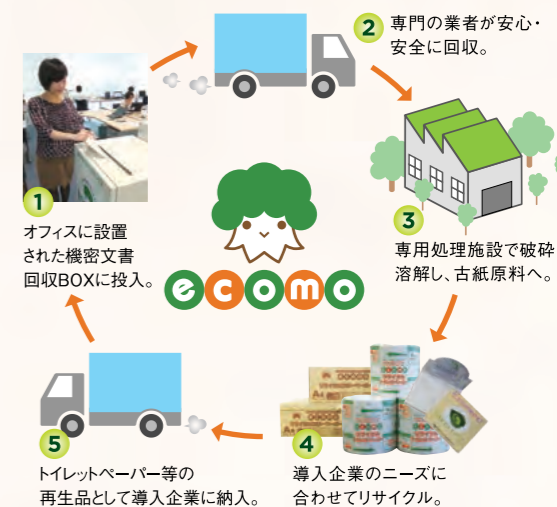
※「iPhone5」、「iPhone 4s」対応の2種類。  
ニュースペーパー柄と迷彩柄があり、それぞれに無地のものが付属。  
※画像はすべてiPhone5用。

RECYCLING

新サービス  
「オフィスecom」がスタート。

—オフィスから出る機密文書をニーズに合わせてリサイクル—

オフィスにおいて機密文書を破棄する際、その多くはシュレッダーにかけられるのが通例です。シュレッダーにかけられた紙の破片は繊維が細く切断されるため再生紙とした場合に強度が低く、リサイクルには不向きとして破棄処分されるのが一般的でした。そこで当社は、シュレッダーの代わりとして機密文書の回収ボックスを設置する「オフィスecom」サービスをスタートしました。「オフィスecom」の特徴は、回収したコピー用紙をリサイクル原料とし、トイレトペーパーなど設置した企業が希望するさまざまな紙製品として再生し、ふたたびその企業に納品することにあります。機密文書の回収と再生紙製品の納入をセットにすることでトータルコストの削減を実現し、環境負荷低減にも繋がるビジネスモデルです。今後も多くのお客様に広く普及していきたいと考えています。



- メリット
- 1 シュレッダーでの廃棄処理と比較して、トータルコストを軽減できます。
  - 2 復元可能と言われているシュレッダー処理よりも安全。機密情報漏洩リスクを軽減し、機密レベル向上を図れます。
  - 3 リサイクルによる環境負荷低減を実現。地球環境保全・CSRの向上にも貢献できます。

お問い合わせ：開発営業本部 環境ビジネス課 TEL：(03)3542-9080

EXHIBITION

名古屋支店で  
商品展示会を開催。



3月5日、6日に名古屋支店にて展示会を開催しました。今回は日本製紙グループ各社のご協力のもと、洋紙はもとより機能紙や新事業開発分野にテーマを当て、付加価値商品を中心に情報発信しました。新たな包装材として開発中の「紙製バリア包材」や木材を原料とする「セルロースナノファイバー」をはじめ、「ペットボトル用紙製加熱容器」、「産業、衛生用品」、「水筆用紙」、「水消紙」、「嵩高紙」等々を展示し、来場者の高い関心を集めました。また一角にKPPコーナーを設け「エコ・プレスバインダー」の実演や「オフィスecom」の紹介など、当社の新たな取り組みをお伝えし、大盛況のもと2日間を終えました。

MERGER

さらなる  
事業展開をめざし、  
子会社を統合。

当社は、今後の海外事業展開における組織強化と機動力アップを目的に、従来海外部門を担ってきた(株)ダイエイペーパーズインターナショナルコーポレーションを4月1日付で統合いたしました。1月の住商紙パルプ(株)との合併も含め、新たな体制で事業拡大をめざす国際紙パルプ商事にご期待ください。

編集後記

幼い頃の話。私が通った保育園には、いくつかの紙芝居がありました。どれも長年使われてあちこち折れ目がつき、ふにやふにやなっていました。

友達と遊ぶのが苦手な私は、みんなが園庭で遊んでいる間も先生が掃除をするのを手伝って過ごすような「風変わった子供」でした。掃除が終わると、よく先生にせがんで紙芝居を読んでもらいました。内容はもはや覚えていませんが、内気な私にとって先生と一緒にいられるのが何より安心だったのでしょうか。

先生とは卒園してから毎年年賀状のやり取りをしているものの、その後は一度も会わずに年月が過ぎました。そんな先生から、一度だけ電話を頂いたことがあります。東日本大震災の後、自宅が宮城県にある私を心配して40年ぶりに連絡をくださったのです。丁寧なお見舞いの言葉をお聞きしながら、私は先生に読んで頂いたあふにやふにやな紙芝居を思い出していました。(TK)

赤の布製表紙、罫線の入ったクリーム色の本文、そして紙の断面に赤いマール模様。美鶴堂さんのマール染めノートに「目ぼれし、購入しました。同じ模様はひとつもない、この特別なノートは日記帳になりました。読者は未来の自分です。物忘れがはげしい私はきつと数年後にこの日記を読み、「懐かしい!」「こんなことあったかな!?!」と驚くことでしょうか。今から楽しみです。ブログも手軽にいけれど、もしもサービスが終了してしまつたら見るのが出来なくなる恐れがあります。すよね。この丈夫な手製本のノートはきつといつまでも残り、2013年当時の気持ちを思い出させてくれるでしょう。私が紛失しない限りは! (MT)





風に舞いあがるビニールシート

森 絵都 (著) / 文藝春秋

## 大切な何かのために 懸命に生きる者たちの物語。

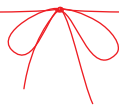
大切なものはひとつではなく、優先順位をつけるのは難しい。にもかかわらず私たちは時にそれをしなければならず、何かをきっかけにバランスを崩す。この本にはそんな主人公たちの迷いが、葛藤が、そして決意が描かれている。主人公たちはみな、大切なものために懸命に生きていく。そして、懸命に生きるがゆえのずるさや弱さ、滑稽さも、目をそらさずに表現されている。

表題作の主人公は、国連難民高等弁務官事務所に勤める里香と、戦地さながらの難民キャンプで支援を行うエド。二人は愛し合って結婚するのだが、互いの生涯をかけ

て守りたい「大切なもの」には大きな隔たりがあった。その後任務先でエドが亡くなり、一人の新聞記者から彼の最期を聞いた里香は彼を理解し、同じ道を歩むことを決意する。

この作品の登場人物たちは誰もが不器用で、弱い。それでいて「大切なもの」を守るためには、苦しみながらも驚くべき強さとしなやかさ、時に狡猾なまでの賢さと行動力を見せる。苦しむ中で出会う周囲の人間たちのあたたかさ、それに促され成長していく主人公の姿が、心地よい読後感を与えてくれる。

生きるということは、決してきれいなことではすまされない。自分にとって大切なものを守ろうとして翻弄される主人公たちが気づき、成長し、新たな一歩を踏み出す瞬間が克明に描かれた6編。自分にとって大切なものは何なのか、もういちど考えてみたくなる作品。



輸送マイルージとCO2排出を抑え、地球温暖化に配慮したライスインキを使用しています。

エコプレス  
バインダー

針金・糊・加熱が不要な製本方法を採用し、リサイクルや怪我の危険へ配慮しています。



国際紙パルプ商事株式会社

KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号

TEL (03) 3542-4111 (代)

URL <http://www.kppc.co.jp/>